



鶴の便り 鶴の便り

夕鶴の里資料館報

平成26年2月20日

第 38号

発行 夕鶴の里

TEL 47-5800

平成二十五年度漆山小学校

語り部養成講座

地域の文化を学び、表現力の向上を図るため、漆山小学校の四・五年生を対象に、一月六日(木)と一月三十日(木)に今年度二回目と三回目の出前語り部養成講座が行われました。

今年度は新たな取り組みで、四年生、五年生の生徒全員が語りの発表を行うことになり、例年以上に生徒達は緊張感をもって練習に励んでいました。

二回目の練習でテキストを見ながら語っていた生徒達も、三回目の練習ではほとんどの生徒がテキストを見ないで語れるようになり、発表会に向けて自信をつけているようでした。



『練習の様子』

成果を披露！

二月四日(火)と二月五日(水)の朝学習の時間を利用して、出前語り部養成講座の発表会が漆山小学校で行われました。

今年度出前講座受講生の四、五年生が二日間にわたり各教室にわかれ一、二、三、六年生の前で語りの発表を行いました。



『発表会の様子』



最初は緊張した様子でしたが、それぞれの語り口で、個性豊かにしっかりと語りを披露しました。語りを聞いた生徒たちは「語りを全部覚えてすごいな」と思いました。「強弱をちゃんとつけているところがよかった」など感想を述べ、熱心に聞き入っていました。今後も、民話を語り継いでいってほしいと思います。

お雛様展示中

夕鶴の里では今年も歌丸旅館さんより寄託いただいております雛人形を展示しておりますので、どうぞお立ち寄りください。



楽しかったー



一月二十五日(土)に、今年度最後の昔のあそび『べっこう飴』を作って食べよう』を行いました。今回は、基本のべっこう飴の他に梅の果肉入りや、紅茶味、レモン味のべっこう飴を作り、中には「おばあちゃんにお土産にもっていく!」という子もいました。今年度の昔のあそびは終了しましたが、来年度も楽しいあそびを企画していきますので、皆さんどうぞ参加してくださいね!

昔のあそび べっこう飴づくり

民話会ゆうづる 会員紹介

今回は、民話会ゆうづるの副会長の島貫貞子さんをご紹介いたします。島貫さんも会長の多勢さん同様、会結成当初から参加しております。



「島貫貞子さん」

- ◇民話会ゆうづるの会員になっただきつかけはなんですか？
- ◆島貫 初代会長にすすめられちやがらよ。七右工門さんが吹き込んだテープを川合久男さんがもってきて「こういうふうには語らないで、だがおめもはまれ」っていわちやなだ。
- ◇語り部になられてよかった事はなんですか？
- ◆島貫 人との交流があったことが一番良かったな。
- ◇語り部をして一番嬉しかったことを一つあげるとしたら？
- ◆島貫 全国語りの祭りで山口県はじめ、いろいろな地域へ行つたこと。交流会などが、名産地などがさ行つて楽しかったな。
- ◇昔話とは貞子さんにとって何ですか？
- ◆島貫 後継者に伝えること！ずーっと続けでもらいたい。特に『鶴の恩返し』。

◇得意語り、または思い入れのある語りはありますか？

◆島貫 笑いばなしが得意です。一番は『へつたれ嫁ご』。あとは艶ばなしを語つど、みんな楽しんでようだな。

◇語りを通して大切にしている事、物でも教えてください。

◆島貫 自分なりのテキスト。二十年間の自分なりの語りのテキストはまっただんだ。

◇貞子さんの漬けるお漬物が大変美味しいと好評ですが、得意漬物はなんですか？

◆島貫 なすのぶつつけとうめづげだな！

◇民話会にこれから望むことはなんですか？

◆島貫 なんつたつて後継者を育てていぐごだごね。夕鶴の里を維持していくにはやっぱり後継者が必要だ。

◇最後にメッセージを！

◆島貫 地元漆山の人も夕鶴の里にきてけるな！

ねりばちを購入しました！

そばうち用のねりばちを購入しました！さらに本格的なそばうちを体験できますので学校行事に♪子供会行事に♪会社行事にご利用ください！



漆山地区 地名伝説集

〈池黒むらの由来（池黒の馬頭観音さま）〉

むかし、むかし、何百年かの大昔。

春のあつたかい日に、猫ご屋敷の前さ、ぴかぴか光る黒馬の馬あー立っていただけ。この馬あ、どこの家の馬だべなあと、聞いてあげんど、だれも飼い主いながつたなあと。それで猫ごの家で飼うごだになつたなあと。ところがこの馬あ、不思議なごに、たちまち大きくなつて、ませ棒のある馬小屋、自由に出入りすんなだ。そして、甘酒あ大好きで、屋根の上つかさ駆け登り、天さ向かつてヒヒヒンで、鳴いたり、古川の水を自由自在に走つて、水浴びもひとりでしたなだ。

毛並みがピカピカ光るすばらしい名馬、一体どつからきたなだべと、大評判。そしたばまた不思議なこと、西のほうの川岸さ、馬のかっこ（形）した、たんなけ（池）出て清水あこんこんと湧いたことあつたけど、村の人あ、やっぱりこつから生つちやなと言つて、馬頭観音をお祭りしたなだ。池の水あ馬の仙気効くし、池端の大木の皮は、胃の薬にしたんだけど。

滅多にない名馬のことを聞きつけた、源の義経公と言う侍の大将が、家来の弁慶と亀井新十郎の二人を使いにして、譲り受けていつなだ。そして、馬の名前を

『するなみ』と改めてご乗馬なつて大活躍したなだ。そして、村の人は、池の中から黒い馬つ子が生まれたと言つので、それまで『池川村』言つたのを『池黒村』に名前が変わつたなだ。

とーびんと。

※義経来訪の事実はともかくも、六社明神参詣の砌り、乗馬一頭伝と言つ古証文を残したと伝えられている。しかし今はなく、調べる術もない。境川（現織機川）周辺は、原野だけで、開田も進まず、馬の産地でもあつたことを伺わしている。

地名伝説担当編集
おりはたの里づくり
推進会議

